

国語科

『わたしたち 手で話します』の音読発表を 学習発表会でしよう

小田原市立酒匂小学校

単元（題材）目標

- 手話の存在を知り、それがどのような場面で使われているのか理解を深める。
- 教材文『わたしたち手で話します』を学習発表会で手話を交えて音読するために、会話文の手話をおぼえる。

(1) 実施時期 11月下旬

(2) 対象（学年等・人数） 第3学年 28名 特別支援級 2名 小学校教諭 2名

(3) 指導者（教諭・外部講師等） 外部講師：手話サークル「たんぽぽ」より3名

(4) 実施内容

- ①手話についての話を聞く。
 - ・聴覚障がいがある方からのお話。
 - ・手話であいさつと自己紹介ができるようになる。
- ②教材文『わたしたち手で話します』の登場人物の会話文を音読しながら手話をつけよう。
 - ・登場人物の言葉に沿って手話をおぼえる。
 - ・習った手話をみんなで確かめる。
 - ・音読発表を意識して、手話がよく伝わるように工夫したことにアドバイスをもらう。



(5) 成果

本校では、学習発表会が12月初めにある。学習の成果発表の一つとして児童たちは音読発表をしようと決めた。その候補の中に『わたしたち手で話します』があり、“手話ってなんだろう？”からこの作品に興味をもち始めた。半分くらいの児童が、手で話すことを“手話”ということは知っていた。そこで、家庭学習で調べてきた児童、図書室で本を見つけた児童など、はじめのうちは、調べ学習で手話について学んでいた。本文にあわせた手話をするには、本当に手話で話ができる人から学んだ方がよいという思いから、小田原市教育委員会や社会福祉協議会の方から手話サークル「たんぽぽ」を紹介していただいた。

2回ほど、手話サークル「たんぽぽ」で活動している方をお迎えして、手話を習うことにした。初めて聴覚に障がいがある方の話し方を見たり、聞いたりした児童たちは「自分と同じようにすらすら話せるんだね」と感動していた。また、言葉だけで伝える方法に、動作を加えたら相手が自分の思いや考えをもっとよく分かってくれるということに気づいた児童もいた。1回目の学習で覚えたあいさつや自己紹介を2回目には、自分から積極的に使おうとしている児童の姿が多かった。

(6) その他

手話は、コミュニケーションツールの一つであるので、教材文通りの言葉にするためには、事前の打合せをし、文章を手話に訳す必要があることが分かった。国語の教科書（学校図書）にこの教材文があるので今後もこのような取組をする学級があると思う。また、サークル活動を維持していくためには活動費が必要であることが理解できた。学校の予算捻出が難しい中ではあるが、今後も積極的に活用したいし、紹介していきたい。